

福岡県理学療法士連盟

ニュース No6

発行責任者：今石 喜成
 編集：福岡県理学療法士連盟 広報部
 事務所：
 〒802-0821
 北九州市小倉南区横代北町2丁目6番31号
 TEL 093-961-3431

想いをかたちに

Fukuoka Physical Therapist Federation

◆ 巻頭言

福岡県理学療法士連盟
 会長 今石 喜成

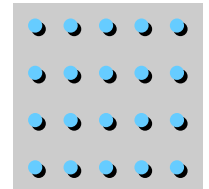
みなさま、明けましておめでとうございます。

今年も福岡県理学療法士連盟(福理連)は理学療法士の職域確保と国民のみな様にとって健康で生きがいがある、価値ある未来のために活動しています。この想いをかたちにするためには政治的力がないと前に進みません。最終的には法律の改正や、制定を行っていきたくと考えています。具体的な活動として、我々の想いに賛同していただける議員の選挙応援や政治活動を行います。また組織内議員を擁立し理学療法士の声が国政に届くよう活動を行っていきます。

昨年末より日本理学療法士協会の副会長である小川かつみ全国後援会支援者名にご協力いただき、誠に感謝しています。皆さんの協力で全国でトップの10,642

名を集めることができました。今後も第2次、3次と支援者を集めますのでご協力をお願いいたします。

2025年に地域包括ケアシステムを稼働させます。このシステムに多くの理学療法士が参入できるかは不透明な状態です。今後は地方自治体に我々の力を示していく必要があります。勿論個々の学術的研鑽や市民への啓発は重要ですが、県議や市議・町議に理解や協力していただける関係作りを構築する事も福理連の重要な役割です。福岡県内には現在5千名を超えるの理学療法士がいますが、未来のために今こそ理学療法士一人ひとりが団結しなければなりません。まず福理連へ入会いただき広い視野を共有しましょう。我々の想いを我々でかたちにしていましょ。



◆ 会費納入のご案内

福岡県理学療法士連盟は福岡県理学療法士会と共に歩んでいます。連盟の会費は、私たちの声を医療や福祉の政策に反映させるための活動費として使用しています。例年、連盟会費の納入率が低く、活動に支障がでておりますので、早めの会費の納入を御願い致します。

なお、理学療法士連盟の会計年度の期間は、1月より12月となっております。会費の納入は、**現在、口座引き落としも利用できるようになっております。手続きがお済みでない方は同封の申込用紙にご記入の上ご返送下さい。**よろしく御願い致します。また、引き続き県学会や研修会等で連盟窓口にて支払うこともできます。ぜひ、お気軽にお声をかけてください。

また、**新入会の方で口座引き落としを希望される方は、預金口座振替依頼書に加え、入会申込書の提出が必要**となります。入会申込書はHPよりダウンロードし、ご記入の上、銀行引き落とし申込書とともに返信用封筒に入れご返送下さい。

<http://www.fptf.sakura.ne.jp/index.html>

目次：

巻頭言	1
会費納入のご案内	1
特集・小川かつみ氏	2・3
ニュース・トピックス	3
現在の加入状況	4
昨年の活動内容	4
活動報告会・研修会	4
連盟役員・ブロック長	4

特 集

理学療法士の未来に向けて

小川 克己

(日本理学療法士協会 副会長)

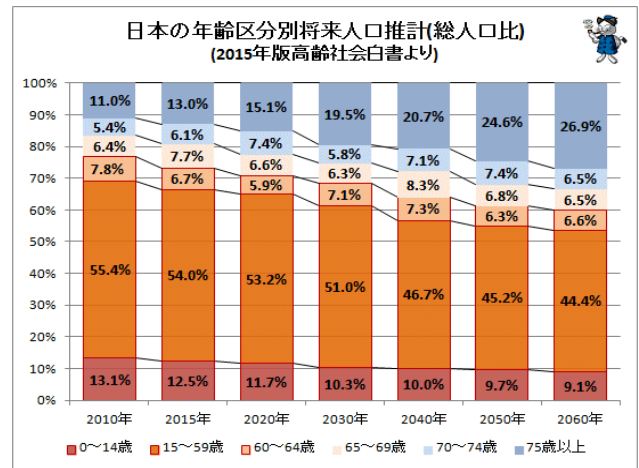
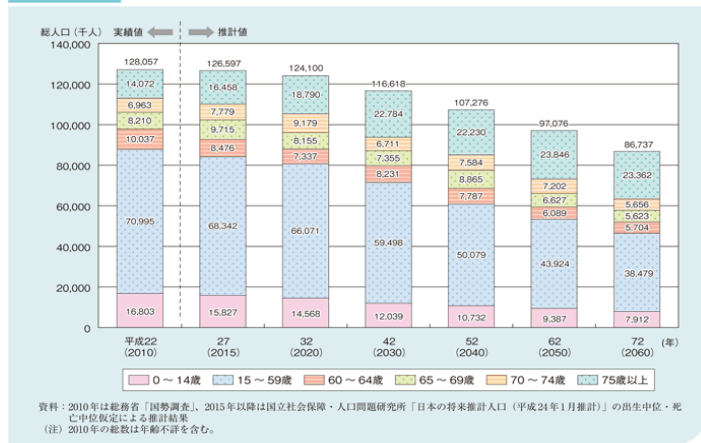


私たちの環境

診療報酬改定の春を目前にして、様々な情報？が飛び交っていますが、いずれにしろ大局的に見てプラス改定を想定させる好要因はまったくないと言って過言ではありません。先の介護報酬改定、そして今回の診療報酬改定と、このままの状況で2年後に控えている同時改定に雪崩れ込んでしまうことに大きな危機感を覚えます。

ご承知の通り、次期同時改定は、これまで国が打ち出してきた様々な高齢者対応の最終形であるとされており、それ以降は、こと高齢者対応に限っては大きな変更はないとされています。いわゆる「2025年問題」が社会保障政策上の大きな問題として取り上げられていますが、これは社会保障財源から見たときの「出」の問題であり、その一方に「入」の問題、つまり「少子化」があることに、意外に気付いていないのではないのでしょうか。総人口に占める高齢者人口(特に後期高齢者)とそれ以外の人口(特に生産者人口)との比が大きな問題なのです。ちなみに2015年版高齢社会白書によれば、2015年では13.0%:54.0%ですが、2040年では20.7%:46.7%となり、さらに2060年では26.9%:44.4%となります。「入」が減る一方で「出」が増えるという状態が長期にわたって持続することになります。

図1-1-3 年齢区分別将来人口推計



社会保障財源は税収に立脚しています。GDPが落ち込めば税収も落ち込み、当然のことながら社会保障財源も縮小を余儀なくされます。GDPは、労働力人口×労働時間×労働生産性と考えることができますが、労働力人口が減少することは現状で避けられない流れであり、労働時間も世界的に減少する方向にあり、生産性についても近年は減少の傾向が強くなっています。

社会保障財源を言えば生活の糧としている職種は、医療・保健・福祉に関わるものをはじめとして多くあります。しかもそのほぼすべての職種が増加の一途にあります。今後の超高齢社会を考えれば一定の数が必要ですが、果たして減りゆくGDPの中でそれをまかなうことができるのでしょうか。

私たちは理学療法士の未来をどう築くのか

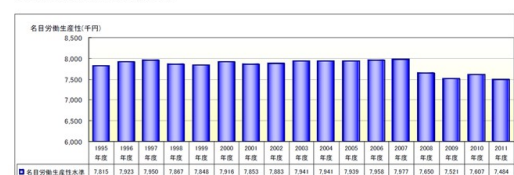
では、こうした厳しい環境の中で私たちは明るい未来像をどう描けば良いのでしょうか。以下、私の個人的見解であることをお断りさせて頂いた上で率直に述べさせて頂きます。

1. 選ばれる職業であること

リハビリテーションという言葉は50年の歴史の中でほぼ認知されましたが、理学療法という言葉は果たして認知されたのでしょうか。医師でも看護師でもない人が白衣を着て、様々な運動用具のある部屋で患者さんを治療している…これを一般の方々はリハビリと呼称し、また、「リハビリしてきた」や「リハビリに行ってきた」と話し、「理学療法を受けてきた」や「理学療法室に行ってきた」などとは言いません。過去、理学療法という言葉を知ってもらう前にリハビリテーションという言葉の啓発を優先しなければならず、私たちですら「リハビリしましょう」と口にしてきたツケなのかも知れません。まずは理学療法を正しく理解してもらうこと、理学療法士という専門職を認識してもらうことが必要です。

では、そのためにどうしたら良いのか。目の前の患者さんに真摯に向き合うこと。これは当たり前です。加えてきちんと説明すること。理学療法士としての知識や技術を日々高める努力をすること。まがい物の多い現代において、目に見えるものを結果として明確に示せることこそが専門性であり、その結果として患者さんやご家族の理解と信頼を得ることができるのです。職名すら認知されない職業が生き残れるはずはありません。

日本の名目労働生産性の推移



公益財団法人 日本生産性本部「日本の労働生産性の動向 2012年版」による。

2. リハビリテーション専門職としての理学療法の原点回帰

リハビリテーションを説明するときに「社会復帰」や「全人的復権」という言葉が使われましたが、その基本的な考え方は、何らかの障害を有する人をして、可能な限りその機能を発揮させることによって社会統合を実現することです。社会統合を果たすためにはICFを持ち出すまでもなく活動と参加は必須でした。そのために理学療法は科学され発展してきたのです。リハビリテーション医療が二度の大きな戦争により発展したことを思えば容易に理解できるのではないのでしょうか。理学療法アプローチの向かう先に患者さんの自己実現が得られなくて何のための理学療法でしょう。

3. 理学療法による価値の創造

人間は動物です。動くことを目的として、あるいは動くことにより身体機能は維持され、向上する生物です。一方、理学療法士は、ひとの動きに対する唯一の医療専門職として育成され、継続してその学びの道に存在します。換言すれば、ひとがひととして自己実現を図るための根幹の部分に関わることのできる専門職であると言えます。また、ある人がある空間に置いたときに両者の機能的評価を行い、両者を融合させることのできる素晴らしい能力を有しています。この知識と技術は、障害を有する人のみならず障害のない人にも適用できるものです。障害学を背景に、ひとの動きを科学する知恵は、例えばさまざまな生活環境はもとより、すべての就労環境において活用され、健康増進や生産性の向上、そして障害予防を提案できる立場にあります。それは何かしらの道具や用具の発明にすら結びつくこともあり得ます。また、先に述べた生産人口の減少についても、労働力再生産という視点から、高齢者や障害者の就労現場への誘導も私たちのこれからの大きな役割となります。理学療法には限りない可能性があると思えます。

以上、思うままに述べてきましたが、いま私たちに求められているものは理学療法士としての尊厳と自立を支えるための専門性の確立とその啓発であり、柔軟な発想と豊かな行動力であると確信します。日本理学療法士協会はこれまで、そしてこれからも理学療法士による職能団体として、その専門性を高め、それらを通じて国民の幸福に資する努力を続けます。その一方でそうした民間団体としての努力と成果を社会的制度に拾い上げるための仕組み作りが必要です。これを精力的に行うために私は国政の場へと挑戦します。努力が報われる国を目指して、共に頑張ろうではありませんか。



◆ ニュース・トピックス

① 平成27年 7月13日(月)

福岡県理学療法士会及び福岡県理学療法士連盟三役、福岡県議会・福岡県庁訪問

② 平成27年 9月 4日(金)

福岡県理学療法士会・福岡県理学療法士連盟合同役員研修会

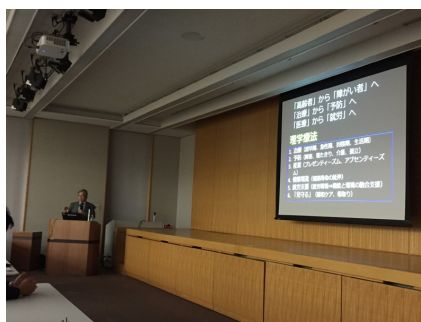
日本理学療法士協会の小川副会長が士会特任理事の立場で九州各県を訪問しました。最終日の9月4日に福岡入りし、県内の3病院を訪問しました。夕方からは福岡県理学療法士会との合同役員研修会が麻生リハビリテーション大学校にて開催され、多数の役員が出席し、小川副会長のご講演に耳を傾けました。



福岡青洲会病院にて



栄光病院にて



麻生リハビリテーション大学校における講演会の様子



ラウンド後懇親会での一幕

◆ 現在の加入状況

会員数(平成28年1月27日現在) 1,594名(29.7%) (カッコ内は県士会会員比)

北九州 585名(31.0%) 福岡 488名(22.3%) 筑後 521名(40.0%)

まだまだ会員数が少ない状況です。今後もさらなる理学療法士の理解と入会の促進が重要です。

◆ 昨年の活動内容

○定例会議

役員会(2ヶ月に1回)、懇話会(年2回)、

○3月活動報告会・研修会

○参院選に向けての活動等

○入会促進活動

2月 福岡県理学療法士学会

4-5月 新人オリエンテーション

6月 福岡県理学療法士研修会

その他福岡県理学療法士会地区勉強会

◆ 活動報告会・研修会のご案内

福岡県理学療法士会所属または福岡県内在住の理学療法士ならどなたでも参加できます。

また、作業療法士も言語聴覚士も是非参加をして頂き、リハビリテーション全体での応援の場としたいと思いますので、各職場の理学療法士はご一緒に参加計画して下さい。

日時 平成28年2月27日(土) 15時30分～受付開始

場所 麻生リハビリテーション大学校

◆活動報告会 16:00 ～ 16:45

平成27年度事業報告 平成28年度事業計画 等

◆福岡県臨床理学療法研修会

17:00 ～ 17:30

講演1 「リハビリテーション専門職の過去・現在・未来
～私たちの夢を描く～」

講師 小川 克己 氏 (日本理学療法士協会 副会長)

17:30 ～ 18:30

講演2 「平成28年診療報酬改定最新情報」

講師 大津 陽子 氏 (日本理学療法士協会事務局職能課)

第三期(平成27～28年度)福岡県理学療法士連盟役員を紹介します！

福岡県理学療法士連盟役員

職務	氏名
会長	今石 喜成
幹事長・副会長	白石 浩
副幹事長・副会長	永野 忍
幹事・事務局長	宇戸 友樹
幹事	甲斐 学
幹事	大原 常豊
幹事	濱田 真吾
幹事	笹栗 淳子
幹事	吉村 直人
幹事	長谷川 優

ブロック役員

ブロック	氏名
福岡	春口 幸太郎
福岡	中島 大輔
福岡	山坂 誠一
筑後	原 孝太
筑後	麻生 努
筑後	本田 晴彦
北九州	福永 暁
北九州	志田 啓太郎
北九州	松田 浩昭